

ラジオ放送「福音の光」説教

題：「とげの恩寵」

コリントの人への手紙第二 12 章 1～10 節

「しかし、主は、『わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さの内に完全に現れるからである』と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私を覆うために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇ろう。」(9)

姫路あけぼの教会牧師 廣田守男

皆さんおはようございます。私が呉市のキリスト教会で奉仕していた時、慢性腎不全を患い、人工透析を始めました。その1年後、1986年11月から姫路市南部の現在地で開拓伝道をはじめた次第です。郷里伝道の重荷を与えられ、妻と三人の子供と共に、私の実の姉が住んでいた一軒家に転居し、伝道を開始して31年になります。

基督教の伝道者パウロは「わたしは、肉体に一つのとげが与えられた」と告白しています。人は指先に刺さった小さなとげにも疼きますので必死に抜こうとします。パウロにとってこのとげは大きな痛みであった筈です。そのとげが何であるかは不明で、眼病か、足が不自由だったのか、どこかに障害を帯びていたのです。パウロはとげが与えられたのは「高ぶることのない」ためだと告げていますが、人間は「これさえなければもっと自由に思う存分に奉仕もでき、働きもできるのに」と思える事柄に直面するものです。

皆様方も如何でしょうか。人間は、自分にとって不都合な事があれば、自分を否定し、消極的にもなり、打ちのめされてしまうのです。パウロはこのとげを「サタン」「悪魔の使いだ」と告げています。主イエス様はサタンを「盗人・強盗」になぞらえ、彼らは「盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするため」に来ると言われました。パウロは、このサタンの支配から解放されたい、このとげを抜いて欲しいと願って、神様に何度も何度も祈りました。

人は誰しも厳しい現実立たされ、神様に祈らざるを得ない状況に追い込まれる時があります。私も透析以外に処置がないと宣言された時には友人にも手紙を書いて祈って頂き、また自分でも祈りました。開拓伝道をはじめた時も同様でした。過労のために心臓を悪くして入院をした時も、自分の今後のこと、家族のこと、教会のことを思い、神様に真剣に祈らざるを得ない状況に置かれました。ラジオを聞いておられる皆様もそれぞれ経験しておられることでしょう。

パウロは処々方々で伝道の業に携わっていく時、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難等を経験し、絶望の淵に陥り、悲しく苦しい出来事に直面したのです。けれどもその都度、神様に祈り、また祈りの友にも祈って貰い、伝道の業のために用いられたのでした。

パウロはかつて第三の天、即ち樂園にまで引き上げられ、人が口

にするのも許されない、言い表し得ない言葉を耳にするという経験をしたのです。しかしその経験をも忘れ去らせ、覆してしまう程の痛み、深い嘆きに陥ったのです。ですからパウロは何度も何度も祈り続けたのです。その時、主イエス様が「わたしの恵みはあなたに充分である。わたしの力は弱さのうちに完全にあらわれるからである」と言われたのです。人は、自分の祈った通り、計画した通りに物事が運ぶと、神様の恵みが注がれていると思い、その反対だと神様の恵みを受けていない、顧みられていない、見捨てられたと思うのです。しかしこれは人間の思いであって、神様は「十分に恵みを注いでいる、神様の力が発揮されるのだ」と仰られるのです。

旧約聖書の創世記では、神様が天地万物を創造された時、はなはだ「良かった」と語られ、何も悪いものはなかったのです。しかし人が様々な事柄を「悪いこと」として捉えてしまうのは、人間がまことの神様に背き、神様の前に跪かないからなのです。その結果、神様が与えてくださっている恵みを恵みとして受け留めることが出来ず、否定的な考え方しか出来ない悲しい現実に陥るのです。しかし、神様が与えて下さるものはすべて十分な恵みなのです。

神様の御力は、人の「弱さの中に完全に現れ、発揮される」のです。弱いからこそ神様に信頼せざるを得なくなります。神様は信頼する者に「ご自身の力を十分に現して下さる」のです。パウロは「キリストは、弱さのゆえに十字架につけられました」と告げています。人は、苦しいこと、悲しいこと、障害を負ったり、色々な事柄に直面すると、その状況を自分の頑張り、自分の力で乗り越えようと思いがちなのです。しかし、主イエス様は弱さに徹して、自分の力に頼らず、神様の御力により頼んで十字架を負われたのです。私は「私の内に働いて下さるキリストの力が分かるように、もっと自分の弱さを知ることが出来るように」と祈らされています。

パウロは、「キリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう」。「なぜなら、わたしが弱いときにこそ、わたしは強いからです」と告白しています。主イエス様は「わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを捨てない」と約束して下さっています。私たちはそのご愛の中に生かされているのです。その主イエス様を見失って、自分や他人の力によって切り抜けようと期待する故に、「当てと突っ張りとは向こうから外れる」という諺の様に、誰も何もしてくれない、当てにならないと失望してしまうのです。これこそ人間の弱さなのです。私たちは自分の弱さを知って主イエス様に信頼し、あなたこそ私のかけがえのない御方です、と告白してそれぞれの人生を歩ませてくださいましょう。その時に「弱さを覚える中に注がれる神様の恵みとみ力」を味わうことができるのです。あなたの上に神様の祝福をお祈り致します。